

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/10/01

主要国株価の動向がメイン

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	中国の景気減速懸念は再燃するか 予想レンジ: 80.000 ~ 87.500 円	2 - 3
NZドル/円	➡	NZの物価動向に注意 予想レンジ: 72.000 ~ 80.500 円	4 - 5
ランド/円	↘	下ブレた際の幅は大きい 予想レンジ: 8.000 ~ 9.100 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

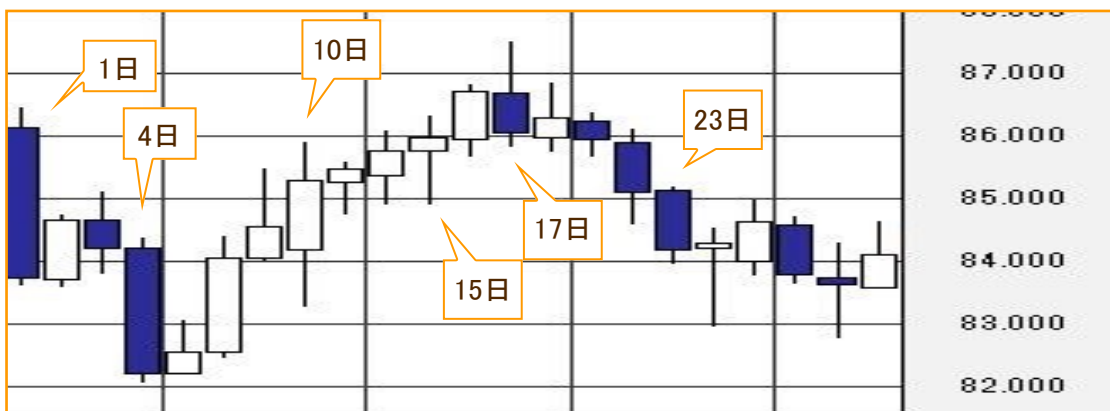
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 9月の推移

AUD/JPY

9月の豪ドル/円相場は82.116～87.508円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.4%の下落(豪ドル安・円高)となった。

8月の中国発の世界的な株価の暴落から広がったリスクオフムードが9月初めに一服すると、豪ドル/円も82.116円の安値を付けたところから下げ幅を縮小する様子が見られた。しかし、その後も散発的に台頭する中国の景気減速懸念が頭を抑える形となった。また、豪中銀(RBA)の金融政策に関しては当面据え置きの色が濃く、豪ドルが主体的に動くという様子は見られず、一般的に主要国株価を眺めての値動きとなった。



四本値

OPEN	86.153
HIGH	87.508
LOW	82.116
CLOSE	84.138

1日	豪中銀(RBA)は政策金利の据え置きを発表。声明文では「経済はしばらくの間たるみがある見通し」「金融政策は緩やかな必要」「豪ドルは商品相場的大幅な下落に調整されつつある」「中国の状況は最近さらに軟化」と、目新しい文言は見られなかった事から、豪ドル/円の反応は限られた。もっとも、アジア市場中に発表された中国8月製造業PMIが49.7と、好不況の分かれ目である50を下回った事を嫌気して主要国株価が売られる中、豪ドル/円も値を下げた。
4日	米8月雇用統計は、非農業部門雇用者数が17.3万人増と市場予想(21.7万人増)を大きく下回ったものの、労働参加率が62.6%と前月から横ばいの中で失業率が5.1%と予想(5.2%)以上の改善を見せた上、平均時給が前月比+0.3%と予想(+0.2%)以上の改善した事を受けて早期利上げが意識されると、NYダウ平均が軟化。これが重石となって豪ドル/円は82.116円まで弱含んだ。
10日	豪8月雇用統計において、失業率は6.2%と市場予想通りだったものの、新規雇用者数が1.74万人増と予想(0.50万人増)よりも良好な結果だった事を受けて豪ドル/円は上昇した。
15日	RBAは理事会議事録を発表。「政策金利の据え置きは適切」「労働需要が増加しているが、余剰能力と賃金圧力は依然弱い」「成長率は平均を下回る見込みだが、ここ数カ月は改善」「主要商品価格の大きな下落による豪ドル安、成長を支援する見込み」と、声明文と大きな差がない内容だった事から、豪ドルの反応は限られた。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが見送られ、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が会見でハト派的なスタンスを示した事を受けてNYダウ平均が上昇すると、豪ドル/円は一時87.508円まで上昇した。しかし、その後にNYダウ平均が急激に反落した事から、豪ドル/円も失速した。
23日	中国9月財新製造業PMI・速報値が47.0と予想(47.5)を下回った事を受け、豪ドル/円は失速した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	18763.72
HIGH	18777.47
LOW	16901.49
CLOSE	17388.15

NYダウ平均

OPEN	16528.03
HIGH	16933.43
LOW	15942.37
CLOSE	16284.70

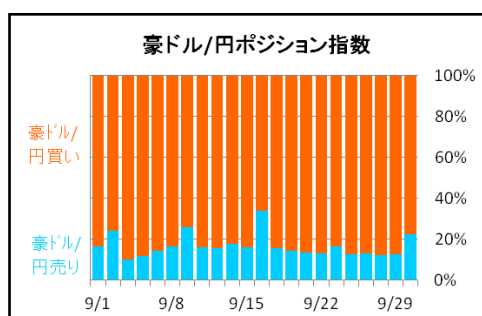
上海総合指数

OPEN	3157.832
HIGH	3256.743
LOW	2983.535
CLOSE	3052.781

豪10年債利回

OPEN	2.695%
HIGH	2.872%
LOW	2.578%
CLOSE	2.605%

9月のポジション動向



10月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・豪8月小売売上高(2日)
- ・米9月雇用統計(2日)
- ・豪8月貿易収支(6日)
- ・RBAキャッシュターゲット(6日)
- ・日銀金融政策決定会合(6-7日)
- ・中国9月貿易収支(13日)
- ・豪9月雇用統計(15日)
- ・中国7-9月期GDP(19日)
- ・RBA議事録(20日)
- ・中国10月財新PMI製造業・速報(23日)
- ・豪7-9月消費者物価指数(28日)
- ・米FOMC声明発表(28日)
- ・主要国株価、国際商品価格

10月の見通し

9月の豪ドル/円は大きな方向感が出ないまま終わった。散発的に最大貿易相手国である中国の景気減速懸念が台頭し、主要国株価が不安定になる中で、豪ドル/円は頭を抑えられた。とはいえ、豪ドル/円をことさら売り込むような流れにもなっていない。10月も引き続き、足元の為替相場の2大テーマである「米国の利上げ時期」「中国の景気減速懸念」を気にしつつ、各種材料を見て行く流れとなりそうだ。前者に関しては年内利上げ観測が強く、問題は10月FOMCと12月FOMCのどちらで利上げが実行されるのか、という点だ。FF金利先物市場では10月FOMCでの利上げはほとんど織り込めていないため、急速に期待が高まる、もしくはサプライズの利上げとなった場合は米ドル主導で為替市場は大きく荒れそうだ。豪ドル/円はドル/円と豪ドル/米ドルが綱引きし合う形で乱高下する可能性がある。ただ、その動きが一服した後はNYダウ平均の動きに注目したい。サプライズ利上げを嫌気して株が大きく売られるようなら、豪ドル/円は乱高下しながらも下方向を目指す事となりそうだ。また、中国の景気減速懸念に関しても、普段は材料視されないような経済指標でも、「景気減速懸念を強めるような『弱めの結果』」の場合にことさら材料とされ、豪ドル/円に売り圧力を掛けるだろう。(石川)

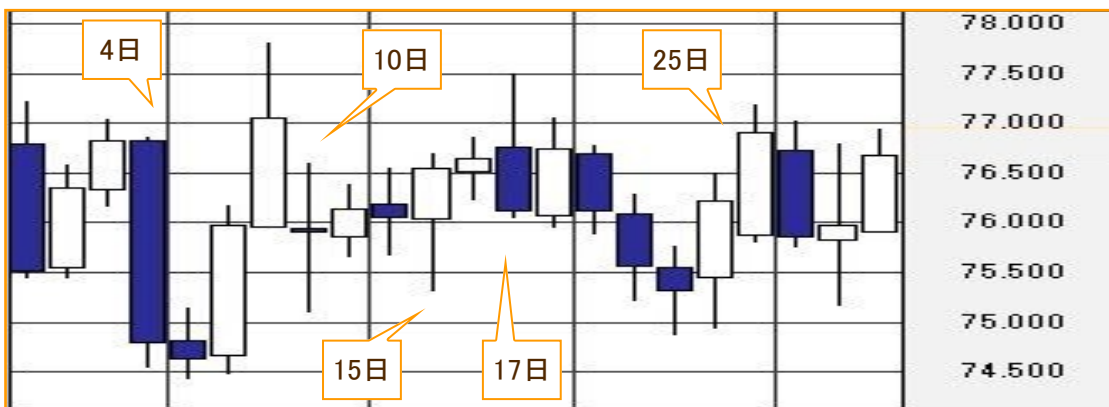
(予想レンジ: 80.000~87.500円)

NZドル/円 9月の推移

NZD/JPY

9月のNZドル/円相場は74.451～77.809円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.2%の小幅な下落(NZドル安・円高)となった。

8月にNZドル/円を大きく引き下げる要因となった中国発の主要国株安は9月の始めに一服。しかし、NZ中銀(RBNZ)の利下げ観測が強い中で戻りは限られた。10日早朝にRBNZは利下げを発表した上に、追加利下げを示唆したものの、この時は主要国株価が堅調な中で、反応は一時的なものに留まった。下旬に入ると主要国株価が不安定化し、クロス円は全般的に軟調な推移が続いていたが、NZドルに関しては大きく売り込まれる事もなく、月としてみると方向感はいまひとつ出なかった。



四本値

OPEN	76.797
HIGH	77.809
LOW	74.451
CLOSE	76.687

4日	米8月雇用統計は、非農業部門雇用者数が17.3万人増と市場予想(21.7万人増)を大きく下回ったものの、労働参加率が62.6%と前月から横ばいの中で失業率が5.1%と予想(5.2%)以上の改善を見せた上、平均時給が前月比+0.3%と予想(+0.2%)以上の改善した事を受けて早期利上げが意識されると、NYダウ平均が軟化。これが重石となってNZドル/円は下落した。
10日	RBNZは政策金利を0.25%引き下げて2.75%とした。これは市場予想通りだったが、ウィーラーRBNZ総裁が「現時点で若干の追加利下げを行う可能性が高そうだ」「これは新たな経済指標次第だ」「NZが輸出する一次産品の価格が急落している事を考慮すれば、一段の通貨安は適切だ」などと追加利下げを示唆した事を受けてNZドル/円は一時急落した。しかし、その後は日経平均の上昇や、自民党の有力議員・山本幸三氏が「追加緩和は日銀の10月30日会合が良い機会」などと述べた事を背景とする円売りなどによって下げ幅を縮小した。
15日	NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTにおいて、物価指数が前回比+16.5%と大幅に上昇した。ただし、NZドルの反応は限定的だった。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが見送られ、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が会見でハト派的なスタンスを示した事を受けてNYダウ平均が上昇すると、NZドル/円は一時77.507円まで上昇した。しかし、その後にNYダウ平均が急激に反落した事から、NZドル/円も失速した。
25日	18時頃からは行われると発表された安倍首相の記者会見に対する期待から日経平均先物が上昇する中、円は全般的に売り優勢となり、NZドル/円は上昇した(実際は目新しい景気刺激策の発表はなかった)。さらに、欧州・米国市場中も上値を伸ばし、一時77円台を回復する場面も見られた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	18763.72
HIGH	18777.47
LOW	16901.49
CLOSE	17388.15

NYダウ平均

OPEN	16528.03
HIGH	16933.43
LOW	15942.37
CLOSE	16284.70

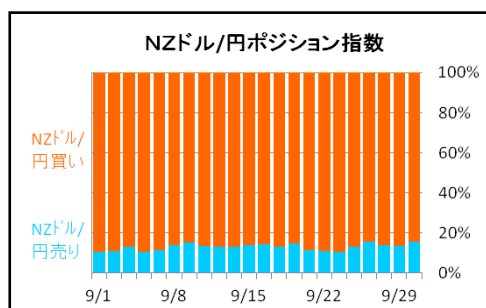
上海総合指数

OPEN	3157.832
HIGH	3256.743
LOW	2983.535
CLOSE	3052.781

NZ10年債利回

OPEN	3.225%
HIGH	3.374%
LOW	3.198%
CLOSE	3.277%

9月のポジション動向



10月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・米9月雇用統計(2日)
- ・NZフォンテラ入札(6日、20日)
- ・日銀金融政策決定会合(6-7日)
- ・NZ7-9月期消費者物価指数(16日)
- ・中国10月財新PMI製造業(23日)
- ・NZ9月貿易収支(27日)
- ・米FOMC声明(28日)
- ・RBNZオフィシャルキャシュレート(28日)
- ・主要国株価、国際商品市況

10月の見通し

10月のNZドル/円相場は、9月と同様に米国の利上げ時期と中国の景気動向を横目で眺めつつ動く主要国株価がメインの手掛かり材料となろう。特に後者に関して、弱い中国経済指標などが続けば中国を最大貿易相手国とするNZには逆風と受け止められるため、要注意だ。中国経済に対する楽観ムードに切り替わるような事があれば、NZドル/円にも8月分の下げを縮小する動きになる目がありそうだが、再度中国リスクを手掛かりにする流れに転じれば、8月安値72.100円をターゲットに下値を切り下げる展開になると見る。

なお、市場での米国と中国に対する関心が高いため、関心が薄れがちではあるが、もちろんNZの独自材料にも注目したい。月初の時点で28日開催のRBNZ理事会では0.25%の追加利下げを行うと見る市場参加者が多い。ただし、8月下旬以降、NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数は3回連続で前回比で上昇しており、8月前半までとはやや風向きが変わった感がある。今月6日および20日のGDTの物価指数、そして16日発表のNZ7-9月期消費者物価指数の結果には注目したい。GDT物価指数の上昇が続いたり、消費者物価指数が市場予想よりも高いようならば、28日のRBNZ理事会での追加利下げ予想が減少し、NZドルに買い戻し圧力が掛かる事も考えられる。また、追加利下げが発表されたとしても、今後の金利変更に関して様子見の姿勢を見せるようならば、やはりNZドルの買い戻しのきっかけとされる可能性がある。(石川)

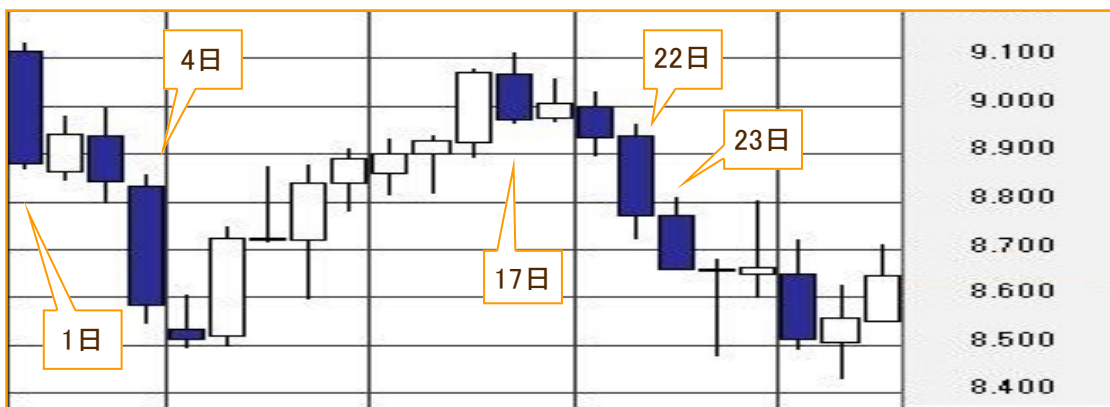
(予想レンジ: 72.000~80.500円)

ランド/円 9月の推移

ZAR/JPY

9月のランド/円相場は8.434～9.133円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.2%の下落(ランド安・円高)となった。

米国の金利先高感が根強く、ドル/ランドを中心にランド安が進行。中旬にかけてはリスク回避ムードが一旦緩和した事や、米国の9月利上げが見送られた事からランドが戻す様子も見られたが、下旬には独自動車フォルクスワーゲンの排ガス規制不正問題や中国の景気減速懸念などを背景に再びリスク回避ムードが強まると、ランド売りが加速。南アの主要輸出品目であるプラチナ価格の下落も重石となった。さらに、南ア中銀が2015年の経済成長率見通しを引き下げた事もランド売り要因視された。



四本値

OPEN	9.117
HIGH	9.133
LOW	8.434
CLOSE	8.646

1日	アジア市場中に発表された中国8月製造業PMIが49.7と、好不況の分かれ目である50を下回った事を嫌気して主要国株価が大きく値を下げる中で、クロス円は全般的に下落。ランド/円も9.00円台を割り込んだ。
4日	米8月雇用統計は、非農業部門雇用者数が17.3万人増と市場予想(21.7万人増)を大きく下回ったものの、労働参加率が62.6%と前月から横ばいの中で失業率が5.1%と予想(5.2%)以上の改善を見せた上、平均時給が前月比+0.3%と予想(+0.2%)以上の改善した事を受けて早期利上げが意識されると、NYダウ平均が軟化。これが重石となってランド/円は下落した。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが見送られ、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長は会見でハト派的なスタンスを示した事を受けてNYダウ平均が上昇すると、ランド/円は一時9.114円まで上昇した。しかし、その後NYダウ平均が急激に反落した事から、ランド/円も失速した。
22日	独自動車フォルクスワーゲンが排ガス規制に関して不正を行っていた事が嫌気され、欧州・米国株が大きく下げた他、プラチナ価格の大幅な下落などもあり、ランド/円も大きく値を下げた。
23日	南ア中銀は金融政策委員会(MPC)で政策金利の6.0%据え置きを発表した。グガニャゴ総裁は会見で「成長が急減速する一方、インフレは加速しており、金融政策が直面するジレンマをさらに深刻化している」などとし、2015年の経済成長率見通しを従来の+2.0%から+1.5%へ引き下げた。これを受けてランド/円は下落した。

日経平均

OPEN	18763.72
HIGH	18777.47
LOW	16901.49
CLOSE	17388.15

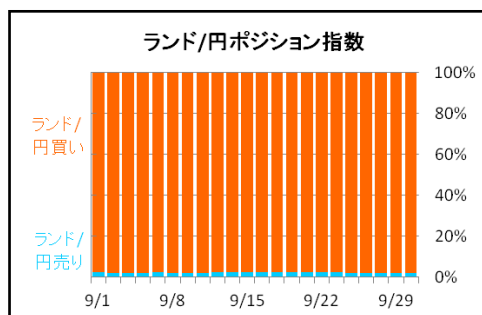
NYダウ平均

OPEN	16528.03
HIGH	16933.43
LOW	15942.37
CLOSE	16284.70

N Y 金

OPEN	1133.80
HIGH	1156.40
LOW	1097.70
CLOSE	1115.20

9月のポジション動向



10月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米9月雇用統計(2日)
- ・日銀金融政策決定会合(6-7日)
- ・中国7-9月期GDP(19日)
- ・南ア9月消費者物価指数(21日)
- ・南ア8月小売売上高(21日)
- ・中国10月財新PMI製造業(23日)
- ・米FOMC声明発表(28日)
- ・主要国株価、国際商品価格

10月の見通し

足元の南アは経済に関し、不安材料があまりに多い。次の金融政策委員会は11月(11月利上げ観測が出てきている)のため、今月いっぱい南アそのものの材料に対するランドの反応は普段以上に限られそう。主要な手掛かり材料は米国の利上げ時期と、主要国株価となろう。

主要国株価に関しては、中国の景気減速懸念が再燃すれば下落したり、新しいマイナス材料が出たり、という事がなければ安定、という動きが予想される。株安が続けばランドには売り材料となる一方、株価が安定していれば、ランドの多少の戻りは期待できるだろう。ただし、米国の利上げが市場で意識されればされるほど、ドル/ランドでドル高・ランド安が大きく進み、ランド/円の上値を抑える公算が大きい。主要国株価の安定は米国の利上げの早期化にプラスに働くと考えれば、ランドの戻りの余地は大きいとは言えないだろう。一方、再び中国景気減速懸念や国際商品安、とりわけ、フォルクスワーゲン問題の発生以降に一段と下落したプラチナ価格の下落などが進むようならば、ランドは大きく売られると見る。(石川)

(予想レンジ:8.000~9.100円)